

確かな造形力
表現を磨く。

表現する意欲
感覚を開放する。

メディアの有効利用
美しく伝達する。





美術学科長
中村 譲

本学が開学し美術学科ができて24年が経ちます。時代の流れとともに美の価値観や表現の内容も多少の変化があり、その時々に対応しいカリキュラムや指導態勢を整えてきました。現在では作品制作だけにとどまらず、自身の活動を発信する能力、芸術を通して地域や社会との関わりを持つことも重要視されています。学生にとっては積極的に周囲の人とつながり、今までにない新しいことに取り組んだりする必要もあるでしょう。

本来、大学では各々の勉強を通して専門の知識・技術を深めることは勿論のこと、学生同志が集い、いろいろな価値観や手法を知って理解し、刺激し合いながら自身を高めていく場であると思います。またその様な環境こそが学生時代に重要なことではないでしょうか。昨今コロナ禍を経験し大学に通うことが困難な学生が増えたとも聞きます。しかし学生の皆さんには、なるべく大学に通い、あるいは街に出て、何か行事やワークショップやその他のことでも積極的に参加していただきたいと思います。その経験は総合的な人間力を養うことになるでしょう。未知の自分の可能性を信じて社会に出て継続して美術に携わって行ける、たくましい人材になってもらえたらと願っています。



学科紹介動画はこちら



選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1 年 次	デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習（平面・立体） 総合基礎実習（日本画・油画・デザイン）
	1年次後期にコース選択 2年次にコース確定

	日本画コース	油画コース	デザインコース
2 年 次	課題制作 自由制作 スケッチ旅行 動物スケッチ 人体デッサン	フィールドワーク オムニバス授業 ゼミ 自主制作 進級制作	各領域から課題を出題 グラフィックデザイン アドバタイジング アニメーション イラストレーション 映像デザイン 造形デザイン クラフトデザイン
3 年 次	課題制作 自由制作 人体デッサン	オムニバス授業 ゼミ 自主制作	専門領域の課題 領域間のコラボレーション課題
	古美術研究演習		
	自由制作	進級制作	地域プレゼンテーション （展示発表会）
4 年 次	課題制作 自由制作 人体デッサン 卒業制作	自主制作 研究会 ゼミ 卒業制作	自主研究制作 卒業制作

大 学 院	専門領域の制作および研究 (より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)
-------------	---

美術学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) 教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や感性を持ち、構成型、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

専攻を選択できるコース制

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題（構成実習／日本画・油画・デザイン）を体験します。その後、各自志望コースの課題（総合基礎実習／日本画・油画・デザイン）を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース（日本画・油画・デザイン）に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士（美術）」を授与します。

- ・美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。
- ・広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。
- ・美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然や尾道の街並みは、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、その豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を実践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化しています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、陶芸、版画）。各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



CG実習室

iMac 40台を常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備などが揃った撮影スタジオ。デジタルに対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



彫刻実習室

2つの教室と屋根付きテラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



塗装実習室

各種スプレー塗装に対応した大型水洗ブース、乾燥炉はもとより、漆塗りのための塗部屋、漆室を新たに備え、塗装環境をさらに充実させています。



金工実習室

金工技法の彫金、鍛金、鋳金それぞれの制作を行う設備が整っています。西日本の美術系大学では珍しいブロンズ、およびアルミニウム鋳造のための溶鉱炉を備えています。金属素材をベースとした造形制作に適した環境を備えた工房環境です。



陶芸実習室

陶芸用電気釜2基、電動ろくろ10台を備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能です。



木工実習室

大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、作業スペースで構成されています。器、家具、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、木質素材をベースとした多目的な利用が可能です。



版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。



施設の様子を

Google ストリートビューでご覧になれます



日本画コースは、基本的な造形感覚、材料技法を修得し、現代の作家として個性豊かに創造し表現できることを目指しています。これからの作家活動や美術に携わる者として、最も重要な核となる内容の教育を行います。

日本画実習Ⅰ（2年次）

植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

日本画実習Ⅱ（3年次）

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

日本画実習Ⅲ（4年次）

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。4年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。



上野ひろ 4年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



松下由佳 〈異郷〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、箔 181.8×227.3cm



衆柚希 3年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×72.7cm



桑村芽依璃 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



高林実穂 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



佐藤美咲 4年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 162×162cm



高蒼治 1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



齋藤小雪 1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



橋田百菜 4年次卒業制作自画像
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



板垣真子 2年次絹本制作
絵絹、岩絵具、膠 65.2×53cm



田所三和 2年次絹本制作
絵絹、岩絵具、膠 65.2×53cm



森雅治 3年次古典模写制作
美濃紙、岩絵具、膠 23×23.6cm



中野治佳 3年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



竹村花菜 2年次動物制作
麻紙、岩絵具、膠、箔 116.7×91cm



西川和佳奈 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



田中美結希 2年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



石川菜摘 2年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 80.3×116.7cm



兄玉萌々果 3年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 80.3×116.7cm



松本さと 1年次剥製制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



中西結命子 2年次静物制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



田上結芽 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



高岡由羽 2年次静物制作 麻紙、岩絵具、膠 72.7×91cm



大学院美術研究科日本画専攻2年

武田 乃梨子

私は絵画を通して、動物や人物をメインのモチーフに、静けさと重みのある独自の世界観を作りあげることに取り組んでいます。

絵画という数ミリの厚さの中で、その世界の奥行きをどこまで他者に伝えられるのか。肌に触れる温度、纏う湿度、微かな空氣の動き、静止した平面から鑑賞者の感覚に触れ、絵画の中にある空間を探らせる表現を探求しています。学部では技術面を集中的に取り組んできましたが、大学院進学後は鑑賞されることを前提とした絵画作りを意識し始めました。自身の世界観を絵画として表現するだけでなく、モチーフや画面構成、色調を通じて、鑑賞者の普遍的な感覚や経験を喚起し、空間をイメージさせる絵作りを心がけています。

また修士課程では、学部とは異なり本格的に作家として取り組む機会が増えました。研究会や演習、自主活動等の経験を通して、学生から一人の作家として意識が変わり始めたように感じます。より専門的な授業を受ける中で、技術的な面の成長とともに、自身の制作との向き合い方や今後の進路の選択肢も広がったように実感しています。



〈香箱・幸箱〉
116.7×91cm
2025
後期自由制作

猫の背中は、心地のよいにおいがします。草の匂いや土の匂い、少しの獣臭さが混じりあった自然の香りは私を少し幸せにしてくれます。

〈穏やかな情熱〉
116.7×116.7cm
2024
前期自由制作

力強さと野心を持ちつつも、穏やかな温かさを持っていただけるように。自身の抱負を絵に映した作品です。泥臭くも美しく踏み出せていたらと思います。



〈Moment〉
112.0×145.5cm
2024
後期自由制作

尾道で過ごした日々は次第に懐かしさを帯び、穏やかな街の流れさえも思い返すと切り取った瞬間のように感じます。斑らで褪せる記憶の中で、自身の中にある原点はいつでも鮮明に留めたいと願います。





油画コースは、絵画表現を軸に、各自が創作と生きることの可能性を主体的に追求していく姿勢を培うことを目標としています。

個々の制作の場を起点に、多様な学びや対話機会を作り出すことで、自己の興味・関心を模索し、課題を立て、自ら取り組む姿勢を養うと同時に、制作の場を共有することによって相互刺激の場を創り出します。

油画実習Ⅰ（2年次）

個々の学生が自身の資質を発掘し、表現の可能性を見出す機会として、各担当教員の視座を反映した多彩な実習やゼミ、および自主制作を並行して行なっていきます。また、同級生や他学年、教員、ゲストスピーカーとの意見交換を通じ、自身の考えを自覚的に発展させていく場も作り出します。

油画実習Ⅱ（3年次）

3年次では自身の表現内容を模索すると同時に、個々の表現にふさわしい形式、描画材料も実験しながら、制作を行っていきます。後期最後の進級制作ではその試みを大学美術館で展示します。また、古美術研究は作品鑑賞体験を自身の制作の糧とする機会になります。

油画実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

4年次はこれまでの自主制作で見つけた課題を踏まえて、それぞれのリアリティを存分に追求していく時間となります。その成果は卒業制作として尾道市立美術館で開催される卒業制作展で展示されます。



馬庭匠 〈Wayback Machine〉 キャンバス、紙、油彩、木炭 サイズ可変



岩田千豊 〈if〉 卒業制作 紙、鉛筆、墨 1750×4580mm



谷本万莉奈 〈記録〉 修了制作 ミクストメディア



大政風 〈Blue even heaven.〉 修了制作
ミクストメディア



中部安梨 〈SymmyS〉
3Dプリント 620×640mm



Zoe NAKAHARA 〈搾取の井戸〉
人工芝、造花、化学肥料、ガム、セメント、
LED 1020×1020×500mm



遠山奈実子 〈how sad〉 卒業制作
布、油彩、透明水彩、カラーペン、色鉛筆 サイズ可変



上田俊 〈ラバーダック・デバッグ〉 卒業制作
パネル、アクリル、油彩、木炭 2440×2840mm



小川裕美 〈染〉 油彩、キャンバス 1940×1120mm
〈癡〉 木材、油彩 980×265×85mm



羽生なつき 〈2024〉 3年次自主制作 220×250×27、210×150×28、200×200×30、190×190×30mm 白陶土、絵の具



篠原夏美 2年次観葉植物課題 油彩、キャンバス 165×1250mm



島田愛子 1年次自主制作
キャンバス、油彩 1167×910mm



今東瑠莉 1年次自主制作
キャンバス、油彩 500×550mm



中村美月 1年次構成実習
ミクストメディア 各100×100mm



池田希樺 1年次自主制作
木枠、毛糸 550×420mm



有川愛華 1年次自画像課題
イラストボード、色鉛筆
550×420mm



生藤瑞季 2年次自主制作
油彩、キャンバス 652×503mm



濱田奏 1年次自画像課題
イラストボード、クレヨン
543×380mm



美術学科油画コース4年

大下 和

私は主に女の子のアニメキャラクターのイメージを用いて造形表現を展開させています。描く女の子のことは「美少女」と呼んでいて、作品の中に広がる空想の世界は私を受け入れてくれる場所として存在しています。

表現手段としては主に紙やデジタル上でドローイングを行っています。最近の活動としては、学生や一般の学芸員、アーティストと交流し、作品制作の思考プロセスや技法について考察・発表していく「pink de tea time」という学外のプログラムに参加し、自己表現の可能性を模索しました。

私は自分が好きな表現に向き合うことが苦手でした。やりたいことがわからないまま、手探りで制作していた時期もありましたが、先生や仲間と制作について対話を重ねるうちに、少しずつ描きたい対象に向き合えるようになりました。経験豊富な先生方や、大学の環境の助けを借りながら、今後も自分に素直に表現研究を深めていきたいです。

次の目標として活動の幅をさらに広げようと思っています。グッズ展開や作品販売などにも挑戦しながら引き続き自分だけの表現の形を探求していきたいです。



Pink de Tea Time
2024/2025成果発表展
における展示風景
アートギャラリーミヤウチ

本展示会では学部1～3年生の間で制作したものを展示しました。私が多様な方法で表現してきた作品が一度に集まった時、表現したいものの核のようなものが見られるかもしれません。日々思い描く美少女とその世界について、鑑賞者と共に考えられればと思います。



日常的に描く紙へのドローイングとデジタルドローイング
2022-2025
油絵の具、アクリルガッシュ、
キャンバス、紙、映像、シール
など



おそろシア革命
「せかいれよサケナよつ*」
CDジャケットデザイン

デザインコースでは、各研究室の専門領域を基本としながらも、興味のあることは、領域を越えた指導を受けることが可能なカリキュラム編成となっています。これにより幅広い視野によるデザインの視点から表現できる能力を培うことができます。



デザイン実習Ⅰ（2年次）

2年次前期は選択課題に取り組み、自分の興味関心がどの分野にあるかを見極める期間とします。2年次後期より専門領域に分かれて基礎を学びます。

- ・広告やパッケージデザインを軸としたグラフィック表現の実践的研究
- ・イラストレーションの展開、アニメーションによる映像デザインの研究
- ・モーショングラフィック、実写などの映像デザインの研究
- ・各種素材を使った造形表現、空間造形表現などの研究
- ・木工、漆芸（塗装）を主とした器、家具などの自然素材によるクラフトデザインの研究

デザイン実習Ⅱ（3年次）

2年次で学んだ基礎をもとに各領域の課題に取り組み、さらに各領域が連携したコラボレーション課題で視野を広げ表現力を身につけます。後期に取り組む地域プレゼンテーション課題では3年次のまとめとして大学美術館にて展示、しまなみ交流館では発表を行います。

デザイン実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

デザイン実習Ⅲでは自身で自由なテーマを設定し制作を行います。卒業制作では4年間の集大成として、その成果を尾道市立美術館にて展示・発表します。



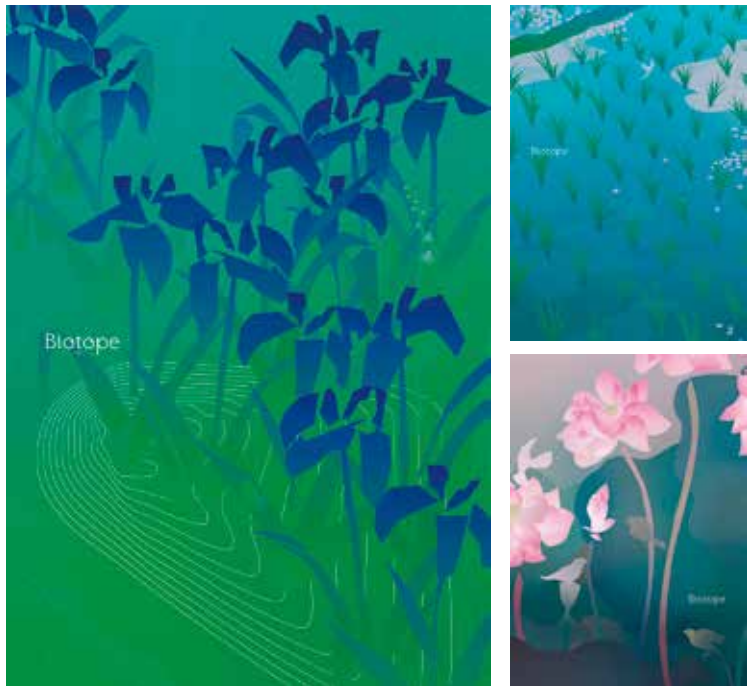
藤原咲朱 〈出身地ポスター課題〉 2年次デザイン実習Ⅰ



饗庭茉莉子 〈ねこ福神〉 4年次卒業制作 立体



松崎菜月 〈LE PARADIS〉 4年次卒業制作 ギフト



小林大純 〈Biotope〉 4年次卒業制作 ポスター



青木志織 〈耽読空間〉 4年次卒業制作 立体



辻田千紗子 〈あいなー神戸の里山ー〉
3年次地域プレゼンテーション



花田詩穂 〈インテリアエレメント課題〉
3年次デザイン実習II



玉田真里夏 〈コミュニケーションロゴ課題〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉 3年次デザイン実習II



田中善 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈onogo〉 3年次地域プレゼンテーション



北村春菜 〈オナチ 七佛めぐり いやしの旅ー〉
3年次地域プレゼンテーション



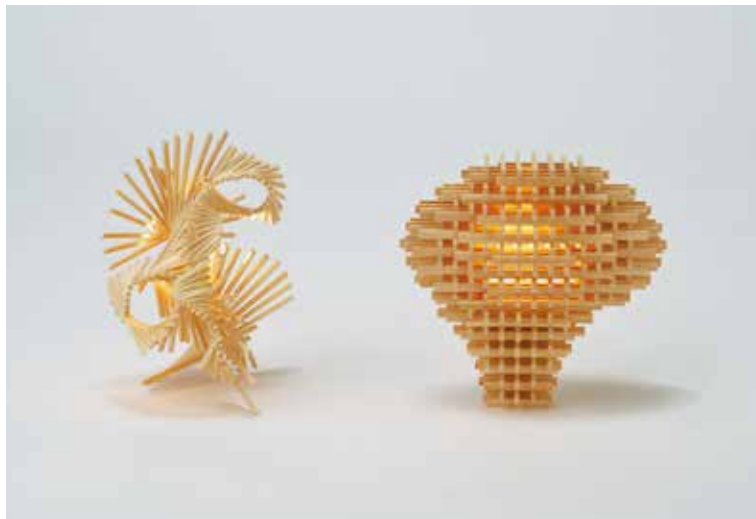
松本末希 〈3文字コミュニケーション課題〉
2年次デザイン実習I



大場 愛菜 〈パン皿とスプーン〉 2年次デザイン実習I



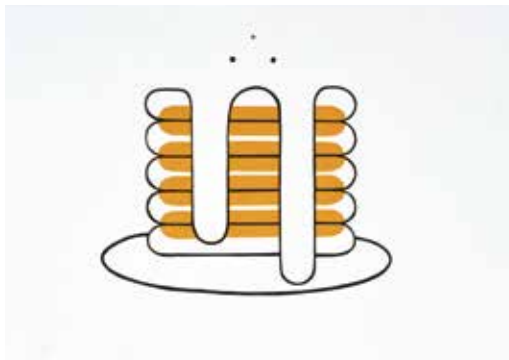
奥田真生 〈これまでとこれから〉
3年次地域プレゼンテーション



政田紗希（左）、梅本翔陸（右） 〈ランプシェード課題〉 1年次構成実習



高濱翔伍（左2つ）、 政田紗希（右2つ） 〈おどろき盤〉 1年次デッサン基礎実習



川渕朱里 〈総合基礎実習〉 1年次総合基礎実習



梅本翔陸 〈ハンガー課題〉 1年次構成実習



IGNATEVA ULIANA 〈ロゴ課題〉 1年次構成実習



美術学科デザインコース3年

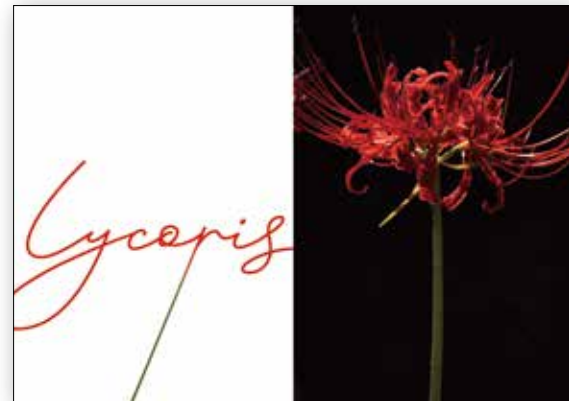
高橋 成士

私はもともと絵を描くことが好きでしたが、デザインのように目的に応じた伝え方を考える機会はありませんでした。そんな中で、デザインには“模範解答”や“最適解”のようなものがあるように感じ、それを探りながら形にしていく過程が自分に合っていると思いデザインコースを選びました。2年次にはグラフィック・アドバタイジング領域を選択し、デザインを通じて人に特定の印象や感覚を与えられる面白さを実感し、さらに深く学びたいと思うようになりました。

印象に残っているのは、「ギフト」をテーマにしたパッケージデザインの課題です。私はお香のパッケージを制作しましたが、デザインの自由度の高さや、どこにテーマの要素を取り入れるかを考える面白さに気づき、パッケージデザインの奥深さを実感しました。選択肢が多いからこそ、自分の考えを整理しながら形にしていくプロセスがとても印象的でした。

また、定期的に行われるミーティングや講評では他の人の作品を見ることで新たな視点を得たり、制作の意図を聞くことで、自分とは異なるアプローチに気づくことができました。ミーティングでは同じ領域の人と制作段階の作品共有や意見交換ができ、先生方からもアドバイスをいただけます。自分の作品についてもさまざまな意見をもらい、それを取り入れながら制作を進めることで、毎回新しい発見がありました。デザインは一人で完結するものではなく、多くの視点を踏まえてより良い形にしていくものだと思改めて実感しています。

今後は、これまで学んできたデザインの考え方を活かしながら、自分の好きなことや個性を反映させた制作に挑戦し、表現の幅を広げていきたいと考えています。



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I



〈ギフト課題〉 2年次デザイン実習I

美術学科教員はキャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



教授（日本画コース）

中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ
1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
絵画日本画専攻単位取得退学
1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師（～2001年）
[公募展]
1994年 再興第79回「院展」初入選／東京都美術館
1995年 第50回「春の院展」初入選／日本橋三越本店
2001年 第56回「春の院展」奨励賞（以後2007,08受賞）
2003年 再興第88回「院展」奨励賞（以後2004受賞）
2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞（大観賞）
（以後2008年受賞、同足立美術館賞）
2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞
[個展、グループ展]
1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞／有楽町西武
2001年 「更生保護」（法務省保護局月刊誌）
担当月表紙絵個展／ナカジマアート／銀座
2007年 中村譲日本画展「Favorite scene」高松天満屋
（以後百貨店開催、2010,2012,2014,2019,2022,2023,2024）
香川県文化芸術選奨表彰
2017年 小林和作賞
2022年 日本美術院同人、香川県文化芸術振興審議委員
現在



〈芸予諸島懐想(村上海賊)〉紙本彩色 180×225cm 2024



教授（日本画コース）

鈴木 恵麻

1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1999年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
[画歴]
1999年 第54回「春の院展」初入選
2001年 「有芽の会」全国更生保護婦人連盟会長賞
2002年 「有芽の会」法務大臣賞
再興第87回「院展」初入選
2004年 第59回「春の院展」奨励賞
（以後2016、2018、2020、2021、2024、2025受賞）
2007年 再興第92回「院展」奨励賞
（以後2009、2019、2020、2021、2022、2023受賞）
2009年 再興第94回「院展」 天心記念茨城賞
2018年 第73回「春の院展」春季展賞
日本美術院奨学金
[個展、グループ展]
2004年 個展「レスポワール展」／銀座スルガ台画廊
2009年 個展 EMA作品展—鈴木恵麻作品展—／そごう横浜（2011年）
2013年 個展「更生保護」
（法務省保護局月刊誌）担当月表紙絵個展／ナカジマアート
2021年 個展「鈴木恵麻展」／尾道市立大学美術館
2022年 箱根芦ノ湖成川美術館コレクション展／茨城天心記念五浦美術館
2023年 セレネ美術館開館30年・宇奈月温泉開湯100年記念「日本画の
新星たち展」／セレネ美術館
現在 日本美術院 特待



〈らせん〉紙本彩色 211.4×166.5cm 2024



講師（日本画コース）

山梨 千果子

2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業
2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程（日本画）修了
2011年 尾道市立大学MOU尾道市立大学美術館 スタッフ
2013年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手（～'18年）
[受賞・展覧会歴]
2005年 第7回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展（ふくやま美術館／広島）
2007年 第9回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展特別賞
（ふくやま美術館／広島）
修了制作「ナツしたく」・修了模写「法隆寺金堂第十一壁画（部分）模写」
大学賞上賞
2008年 第62回春の院展「涼音 すずおと」初入選（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
現代の中国画と日本画展〈グループ展〉（ふくやま美術館／広島）
HiBi 2008〈グループ展〉
（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'10、'12、'14年）
2009年 再興第99回院展「聞こえるよ」初入選
（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）
In Focus 展〈グループ展〉（MOU尾道市立大学美術館／尾道）
2012年 揺籃展〈グループ展〉（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'15、'18年）
2014年 ツナガルケシキ〈グループ展〉（大3島美術館／愛媛）
2016年 第4回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）
2017年 再興第102院展「なつのおと」奨励賞
（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）
はなの日〈個展〉（かわうそ画廊／東京）
2018年 第73回春の院展「みえる みられる」奨励賞
（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
2021年 尾道市立大学日本画展〈グループ展〉（小津和紙ギャラリー／東京）
2022年 第77回春の院展「節季」奨励賞（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
現在 日本美術院 院友



〈ざわめき〉麻紙、岩絵具、箔、膠 160×210cm 2024



教授(油画コース)
小野 環

1973年 北海道函館市生まれ
1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師(～2001年)
現在 AIR Onomichi代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事
[個展]
2000年 「キツネ作戦」／フタバ画廊／東京
2002年 「小野環展」／appel／東京
2005年 「gardens」／ギャラリーそわか／京都
2008年 「gardens 植木鉢の冒険」／ふくやま美術館／福山
2010年 「足下の辺境」／尾道市立大学美術館／尾道
2013年 「ユートピアの迷子石」／Utopiana／ジュネーブ※
2021年 「Re-edit」／光明寺會館／尾道
2025年 「百蝙蝠」／itiSETOUCHI／福山
[グループ展]
2004年 VOCA 展／上野の森美術館／東京
2007年 AIR Onomichi／尾道山手地区／尾道※(2011年※)
2008年 tina.b プラハ国際現代芸術祭2008／プラハ市※
2012年 UTOPIA ～何処にもない場所～／百島／尾道※(2013,14年)
2017年 dr／op Beyond Boundaries／グッドマンアートセンター／シンガポール
2018年 「複数形の世界のはじまりに」／東京都美術館／東京
2019年 ONLY CONNECT OSAKA／クリエイティブセンター大阪／大阪
2021年 第24回岡本太郎現代美術賞展 特別賞／川崎市岡本太郎美術館／川崎
2022年 「いにしえによる一断片たちの囁きに耳をー」／瀬戸内海歴史民俗資料館／香川
(※作家三上清仁とのユニット)



〈再編 スタンダード のぞみが浜住宅〉 百科事典 2021



教授(油画コース)
稲川 豊

1974年 東京生まれ
1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN, ロンドン, MA FINE ART 修了
2007-09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣／ロンドン／イギリス
[個展]
2007年 “Yutaka Inagawa Solo show”／New Art Center／ニューヨーク
2008年 “Nonplace overlay”／Bodhi Gallery／ロンドン
2009年 “Sensory Cocktails”／Gallery Zandari／ソウル・韓国
“Crazytokyo”／Galerie Sutry, Coye-la-Forêt／フランス
2014～15年 “The invasion of Cyberspace”／Unit 24 Gallery／ロンドン
2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa／Lorong Kekabu／クアラルンプール
2022年 符と思う | eASY mECHANISM／MOU 尾道市立大学美術館／尾道
2023年 “Fluxosphere”／UUH OOH／香港
2023年 “Speak Spindle つむ・くち”(2023)／Comma Space／シンガポール
[グループ展]
2007年 “Trajectories”／The Agency／ロンドン
2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival”／Gangueng Museum／韓国
2008年 “Cosmopolis”／Pipy Houldsworth Gallery／ロンドン
2017年 Floating Urban Slime／Sublime／アートギャラリーミヤウチ／広島
2018年 I Say Yesterday, You Hear Tomorrow. Visions from Japan／Gallerie delle Prigioni／トレヴィーゾ／イタリア
2019年 ONLY CONNECT OSAKA／クリエイティブセンター大阪／大阪
2019年 Another Pair of Eyes(企画・出品)／Duddell's／香港



インスタレーション・ビュー 符と思う | eASY mECHANISM
／MOU 尾道市立大学美術館 2022



准教授(油画コース)
橋野 仁史

1982年 熊本県生まれ
2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～'17年)
尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助教(～'18年)
2017年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 講師(～'22年)
[主な展覧会]
2007年 第81回国展／以後毎年
2008年 第82回国展 絵画部奨励賞
尾道からの「3人展」／アートガーデン／岡山
2009年 国展 受賞作家展／井上画廊／東京
2013年 Gg展／ふくやま美術館／福山／以後毎年
2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙
2015年 国展 受賞作家展／銀座アートホール／東京
KKT／ギャラリー向日葵／東京／以後毎年
2017年 個展 橋野仁史絵画展-Fog-／福山天満屋／福山／'19年
2018年 Gg2展／福山天満屋／福山／以後毎年
2019年 再考 人間と自然／広島県立美術館／広島
2021年 中曾智子・橋野仁史2人展-風薫るー／GALLERY森・hako／福山
個展 橋野仁史絵画展-光景-／福山天満屋／福山／
2022年 meet a new／福山天満屋／福山／'23年、'24年



〈UNTITLED〉 油彩、キャンバス 194×162cm 2024



准教授(油画コース)
西村 有未

1989年 東京都生まれ
2014年 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻 卒業
2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画) 修了
2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻研究領域油画 修了・博士(美術)学位取得
[個展]
2012年 「毛わらと油」美術出版社ビューイングスペース(東京)
2013年 「TWS-Emerging2013:例えば祖父まで、もしくは私まで。こんもり出現」
TWS 本郷(東京)
2022年 「図形的登場人物と雪娘 シーズン2」FINCH ARTS(京都)
2022年 「犬、石、物、語り(上巻)」HARMAS GALLERY(東京)
2023年 「呼水(図形的登場人物たち)」Ritsuki Fujisaki Gallery(東京)
「大石物語(I still live there)」FINCH ARTS(京都)
2024年 「岸む音 / 際の上 Murmuring Shores / On the Brink」
MOU尾道市立大学美術館(尾道)
[グループ展]
2010年 「現役美大生の現代美術展-Produced by X 氏」Kaikai Kiki gallery,
Hidari Zingaro(東京)
2016年 「第3回CAF 賞入選作品展」3331 Arts Chiyoda(東京)
2021年 「絵画の見かた reprise」／K Contemporary(東京)
2021年 「Encounters in Parallel」ANB Tokyo(東京)
2021年 「猫とマチエール」MtK Contemporary Art(京都)
2022年 「Kyoto Art for Tomorrow 2022 -京都府新鋭選抜展-」京都文化博物館(京都)
2022年 「或る絵肌ー物語るマチエールー」日本橋三越本店本館6階美術サロン(東京)
[コレクション]
山梨学院大学、高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION
[ワークショップ]
2019年 練馬区立美術館
[賞ほか]
三菱商事アートゲートプログラム2013 奨学生、第3回CAF賞保坂健二朗賞



〈大石物語り(I still live there)2〉 70×160cm
oil and oil bar and acrylic on canvas 2023



教授(デザインコース)

桜田 知文

1960年 広島県広島市生まれ
 1984年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
 1986年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍍金専攻修了
 [制作歴、受賞歴]
 1987年 第3回現代九州彫刻展 入選(石橋美術館)
 1991年 広島パークビル前に野外彫刻設置
 1992年 第30回日本現代工芸美術中国会展 広島市長賞受賞
 1993年 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 作品賞上(’97年も賞上)
 1995年 第34回日本現代工芸美術展 現代工芸大賞受賞
 1997年 さかいでArtグランプリ ’97 秀作賞受賞(坂出市民美術館)
 1998年 第1回佐野ルネッサンス鍍金展 入選〈第2回も入選〉
 2000年 第40回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員40回記念賞受賞
 2004年 第43回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員賞受賞
 2005年 尾道市小中学校芸術祭 グランプリトロフィー制作
 2009年 八千代の丘美術館 第8期入館
 2010年 東尾道彫刻公園に野外彫刻設置
 2012年 第44回日展 特選受賞
 2016年 東広島市立美術館 作品収蔵
 2020年 桜田知文作品展 ―こころのままに―(美術館あーとあい・きさ)
 2022年 第9回日展 特選受賞
 現在 日展準会員、現代工芸美術家協会評議員



〈いのち(めばえ)〉アルミニウム・真鍮
 H97×W25×D25cm 2024



准教授(デザインコース)

林 宏

1967年 大阪生まれ
 1994年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
 1996年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程漆芸専攻 修了
 2020年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 准教授
 [活動歴]
 2005年 日本文化財漆協会 常任理事
 2011年 ナチュラルマテリアルプロジェクト 循環型自然素材の開発及び研究
 2013年 漆芸を支える道具の調査研究
 作品収蔵 東京藝術大学 フィラデルフィア美術館
 [展覧会歴]
 2012年 東京藝術大学創立125周年記念事業「漆芸 軌跡と未来」
 招待出品(東京藝術大学)
 ナチュラルマテリアルプロジェクト(六本木ル・ベイン)
 器奏天回茶展(うおがし銘茶 築地新店)
 日本のいろ展2012(松岡山東慶寺 白蓮舎)
 2013年 個展 林宏 漆の器展(栃木 アルゴノート)
 japanin vari [Natural material projects] (フィンランド ヘルシンキ)
 2014年 壱木呂の会展(新宿 伊勢丹)
 漆芸二人展(瑞玉ギャラリー 東京)
 2015年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
 日本のいろ 展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2016年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
 2017年 壱木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2018年 陶と漆の器展(代官山無垢里)
 2019年 感覚のかたち展(MOU尾道市立大学美術館)
 陶と漆の器展(日本橋三越)
 2022年 はじまりのかたち展(MOU尾道市立大学美術館)



〈耳付漆皿〉W320×D285×H15
 ブラックチェリー、漆 2019

Hayashi hiroshi urushi design
<https://hayashihiroshi.net>

尾道市立大学 デザインコース クラフトデザイン
<https://onomichi-craftdesign.myportfolio.com>



准教授(デザインコース)

伊藤 麻子

2005年 愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 卒業
 株式会社GKグラフィックス勤務(～2008)
 2011年 東邦高等学校 美術科 非常勤講師(～2012)
 2012年 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 講師(～2017)
 [活動歴]
 2005年～2008年
 (デザイン制作会社勤務中の実務)
 果汁飲料 PETボトル パッケージデザイン
 缶コーヒー パッケージデザイン
 紅茶ギフト パッケージデザイン
 化粧品 パッケージデザイン
 文具パッケージデザイン 他
 2009年～
 「skin sweets」パッケージデザイン
 展示会「二人ノ図鑑展」(2014, 表参道)
 展示会「感覚のかたち」(2019, デザイン教員展)
 緑茶商品パッケージデザイン他
 グラフィックデザイナーとしてデザイン業務に携わりつつ、
 真鍮による立体造形表現も思索している



〈市之瀬の里 ブランディングデザイン〉茶袋 2021



〈Shimanami Water リデザイン〉ラベル 2021



准教授(デザインコース)

黒田 教裕

1987年 宮崎県生まれ
 2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
 2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科
 デザイン専攻映像コース退学
 2014～15年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師
 [活動歴]
 2014年 「Media Ambition Tokyo 2014」
 六本木ヒルズ52F 東京シティービュー
 「New Creators Competition 2015」
 静岡クリエイター支援センター CCC
 2016年 「2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL」 韓国・昌原市
 2019年 「続々 三澤 通」ギンザ・グラフィック・ギャラリー(映像編集)
 「松島オープンスタジオ」岡山県倉敷市 松島分校美術館
 (公開滞在制作)
 「まにわ映像フェスティバル2019 勝山スクリーン・フィールド」
 岡山県真庭市
 「感覚のかたち」デザイン教員展 尾道市立大学美術館
 漆 田代明樹男・映像 黒田教裕「物質と記憶」のトレモロ
 三原市芸術文化センターポボロ



〈光風 ― Quiet Shine 〉映像 20分ループ UHD30p 2023



講師（デザインコース）

西原 美彩

1991年 広島県広島市生まれ
2014年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業
2016年 広島市立大学大学院芸術学研究科造形計画研究修了
広島放送株式会社勤務
2018年 広島市立大学芸術学部
映像メディア造形研究室 非常勤助教

【活動歴】

2014年 短編アニメーション「男と青虫」
第2回新県美展（広島県立美術館） 優秀賞
2015年 短編アニメーション「二十億光年のくしゃみ」
ICAF2015 上映
2016年 短編アニメーション「そぞろ」
ICAF2016 上映
2022年 短編アニメーション「鬼、布と塩」
第9回新千歳空港国際アニメーション映画祭 北洋銀行賞受賞
第31回CGアニメコンテスト 入賞
第24回DigiCon6JAPAN 奨励賞
日本アニメーション協会入会
2023年 幻想の神楽 西原美彩展 ―鬼、布と塩― アニメーションとその周辺
第18回吉祥寺アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞
広島文化新人賞 受賞



〈 八つ花のための試作 〉アニメーション 15秒 2024



教授（日本美術史・博物館学）

市川 彰

1971年 愛知県生まれ
1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業
2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（美学美術史学専攻）単位取得退学
2000～03年 萬野美術館学芸員
2004～07年 京都文化博物館総務課主事
2007～12年 京都文化博物館学芸課学芸員

【論文等】

1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏
『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店
1999年 若冲画に示されたもの－「動植綵絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐる－
『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室
2007年 若冲画に示されたもの2－《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐる－
京都文化博物館紀要『朱雀』第19集
2014年 名所図会に記された京都の「名宝」（一）
尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号

【展覧会】

2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展
京都文化博物館企画展
2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～』展
京都文化博物館特別展



准教授（西洋美術史・美学）

西嶋 亜美

北海道旭川市出身
2006年 京都大学文学部人文学科卒業
2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学
2010～2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員
2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学
京都大学博士（文学）

【研究歴】

専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。
・『ドラクロワの物語画と文学』三元社、2025年
・『ドラクロワ作《キリストの埋葬（墓のキリスト）》（ボストン美術館）―新たな宗教主題表現の模索の成果として―』『京都美術史学』第5号、2024年、1-36頁
・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年
・「ドラクロワの『モロッコ旅行記』試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁
・「ドラクロワ「ブッサン論Ⅰ、Ⅱ」（1853年）試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、2022年、67-80頁
・「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ―クールベ作《田園の恋人》とワルツの図像」
伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、刊行予定



助手(日本画コース)

村松 航汰

1999年 広島県生まれ
2021年 大学卒業制作 大学買い上げ
第10回美術新人賞デビュー 2022 入選
2022年 第20回アートギャラリーホーム 入選
第77回「春の院展」 初入選 [同] 24入選
再興第107回「院展」 初入選 [同] 23, 24入選
「尾道市立大学日本画選抜展 ー明日の会ー」(福山天満屋／広島) [23]
個展「村松航汰 日本画展」(東広島芸術文化ホールくら／広島)
2023年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(日本画)修了
個展「村松航汰 日本画展」(ギャラリー杉／秋田)
「第31回チャリティー・アート展」(ギャラリー杉／秋田) [24]
「冬の風景展」(鈴画廊／東京) [24]
2024年 「気更来会」(岡山天満屋／岡山) [25]
「花くらべ」(Gallery SPACE 甍謳る／広島)
個展「村松航汰 日本画展 ～大崎下島の光～」(MAF / 広島)
「尾道市立大学 日本画展」(小津ギャラリー／東京)
2025年 個展「村松航汰 日本画展」(ギャラリー杉／秋田)
現在 日本美術院 院友



〈下山の歌〉 紙本彩色 170×215cm 2024



助手(油画コース)

名座 昌美

1997年 岡山県生まれ
2019年 ONLY CONNECT 企画補助／クリエイティブセンター大阪／大阪
2023年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
現在 尾道市立大学 油画コース助手
制作歴、展覧会歴
2017年 「MYO」／かしく／岡山市
2021年 「キリトル-社会的摩擦から生じる○○-」／Gallery Cafe ULTRA／尾道市
「初期微動」／おのみち歴史博物館／尾道市
2024年 「花くらべ」／Gallery SPACE 甍謳る／福山市
「LUFF / ラフ」／Offline 集会所 Space／尾道市
『本とアートと「ひとやすみ」～Book & Art show～』／まちなか交流館Bank／尾道市
2025年 「夢の断片 Dream Fragment」／屋外展示／尾道市



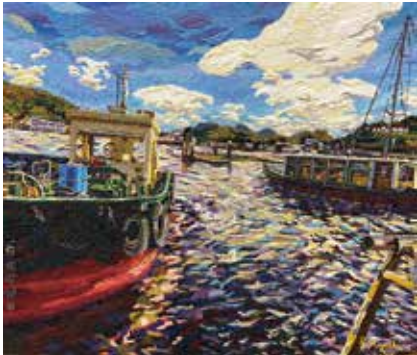
「夢の断片 Dream Fragment」展示風景 平面 水彩画 屋外展示 2025



助手(デザインコース)

小西 美幸

1997年 香川県生まれ
2019年 2018年度美術学科卒業・修了制作展 大学買い上げ
2020年 令和元年度 小林和作奨励賞 受賞
2020・ZERO展 0号展 入選
「CROSS OVER Vol.25」(Yao Alternative Space／台湾・台中)
広島銀行尾道支店にて作品展示／尾道市
「Vigor 2021-GALLERY ART POINT 推薦作家美大選抜展」(GALLERY ART POINT／東京)
2021年 奥野ビルギャラリーズアート展 入選
尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
尾道市役所にて作品展示／尾道市
「しまなみ海道・秋の音楽休暇村2021」にて舞台背景の絵画制作／尾道市
2022年 第96回国展絵画部企画展示「若手作家の挑戦状ー新しい眼ー」(国立新美術館／東京都)
2025年 第21回絵のまち尾道四季展 秀作



〈揺れる波、浮かぶ船、重ねた時〉 キャンバスに油彩 606×727mm 2024

赤木 範陸

テンペラ画技法演習
横浜国立大学 教授

秋山 隆

彫刻
木彫家

足立恵理子

比較芸術論
早稲田大学 非常勤講師

荒木 泰恵

古美術研究演習
研究者

池田 佳穂

絵画総合演習
インディペンデントキュレーター

石多未知行

デザイン総合演習(大学院)
一般財団法人 プロジェクション
マッピング協会理事

今氏 亮二

情報機能論
有限会社ホットタイプ工房 代表取締役

岩井 治樹

美術解剖学
鹿児島大学 准教授

宇高健太郎

日本画材料技法演習(大学院)
文化財保存修復学会 会員
藤文化研究会 運営委員会

太田 啓介

デザイン学特講(大学院)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 技師

大野 直樹

図法及び製図(助手)
アーティスト

小田野尚之

日本画研究AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡ(大学院)
日本美術院同人

加藤 芳夫

情報機能論
元サントリー食品インターナショナル(株)
シニアクリエイティブディレクター

亀岡 知子

デザイン学特講(大学院)
株式会社りそなホールディングス 弁護士

神邊 篤史

人間工学概論
名古屋経済大学 准教授

久保 博雅

情報処理演習
静岡英和学院大学 講師

倉持 充希

芸術論特講Ⅱ(大学院)
神戸学院大学 准教授

坂梨 好香

版画制作演習(助手)
美術家

佐古 百美

情報機能論
絵本作家 イラストレーター

白木 彰

デザイン論
グラフィックデザイナー
愛知県立芸術大学 名誉教授

菅原 智子

壁画技法演習
美術家

杉井 隼人

彫刻(助手)
美術家

大悟法淳一

編集とデザイン
株式会社ごぼうデザイン事務所 代表

高橋早紀子

東洋美術史Ⅰ、Ⅱ
京都産業大学 准教授

武雄 文子

版画制作演習
アーティスト

田代 昭夫

塗装法演習
漆芸家

多田羅景太

デザイン史Ⅰ、Ⅱ
京都工芸繊維大学 助教

田部 健次

金工演習、デザイン実習Ⅰ(銀金)
金工作家

玉木 明

情報機能論
日本郵便株式会社 切手デザイナー

筒井 忠仁

古美術研究演習
京都大学 准教授

苔名 悠

東洋美術史Ⅱ、古美術研究演習
佛教大学 講師

富岡 采花

芸術論特講Ⅰ(大学院)
東京国立博物館 アソシエイトフェロー

中曽 智子

デザイン実習Ⅰ(陶芸技法)
陶芸家

並木 秀俊

日本画実習Ⅰ(箔押し、砂子、切金技法)
日本美術院待待、截金作家

西川真理子

写真(映像)演習(助手)
デザイナー

野田 尚之

写真(映像)演習、情報機能論、
デザイン実習Ⅰ
シネマトグラファー

檜皮 一彦

絵画総合演習
アーティスト

深谷 訓子

芸術文化論
京都市立芸術大学 准教授

福井 一尊

金工演習
島根県立大学人間文化学部 准教授

藤田 紗衣

版画制作演習
美術家

藤田 重信

編集とデザイン
フォントワークス株式会社
フォントデザイナー

松岡 剛

空間造形論
広島市現代美術館 主任学芸員

松本 祐助

木工演習、実習技術指導員(木工)
家具作家

真野 洋介

デザイン学特講(大学院)
東京工業大学大学院社会理工学研究科
准教授

村岡貴美男

日本画材料技法演習(大学院)
日本美術院同人、女子美術大学 教授

村上 由記

金工演習(助手)
造形作家

弥中 敏和

情報機能論
株式会社GKデザイン総研広島 代表取締役

吉田 真菜

塗装法演習
漆芸作家

山崎 曜

デザイン実習Ⅰ、
デザイン総合演習(大学院)
製本家

山田 祐子

文化財保存学概論、日本画実習Ⅰ(裏打ち)
文化財修復技術者

山本 晶大

木工演習(助手)
美術家

山本 基

空間造形論
美術家

ロバート・プラット

絵画総合演習
九州産業大学芸術メディア学部 教授

渡邊 義孝

建築環境論、空間造形論、図法及び製図
一級建築士、風組・渡邊設計室 主宰

美術学科では、卒業・修了制作展を開催しています。
学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。

学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。

美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館と尾道市立大学美術館で卒業修了制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、卒業後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業・修了制作展優秀作品

上野ひろ 《無数の星へ》 卒業制作
麻紙、岩絵具、膠 227.3×162cm



油画コース卒業・修了制作展優秀作品
岡田 麻里子 〈雑記〉 修了制作 メディウム、アクリル



デザインコース卒業・修了制作展優秀作品
黒山 穂乃果 〈ブックデザイン〉 4年次卒業制作 紙、布

美術学科は今年度で24年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。

そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系（日本画、油画）の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている卒業生もいます。



2020年
大学院美術研究科
絵画研究分野
日本画修了
指田 葉月

2020年 尾道市立大学大学院美術研究科（日本画）修了
京都市を拠点に作家活動中
【展覧会・受賞歴】
2018年 再興第103回院展 初入選〈溪谷の街〉[同'24年]
2019年 第18回福知山市 佐藤太清賞公募美術展 入選
第74回春の院展 初入選〈東風〉[同'23, '24年]
第63回尾道市美術展 大賞 尾道市長賞
2020年 個展「5時の憧憬と祈り」(Gallery TK2/東京)
2021年 尾道市立大学 日本画展 小津ギャラリー [同'24年]
2022年 個展－「記憶の灯－5時の憧憬と祈り－」(Gallery TK2/東京)
2024年 一京都・院展俊英作家グループ展－京 TSUNAGU未来(京都 高島屋/京都)
現在 日本美術院研究会員

大学院修了後は美術館（廿日市）に就職しました。その後、帰郷して現在は博物館（京都市）にて企画広報（広報物の作成や博物館運営に関わる広報）として勤めています。社会人でも長く作家活動を続けたいと考えて、制作時間と暮らしの両立が叶う仕事を模索し続けています。

いまの私が感じるのは、制作を続けるには周りの理解が欠かせないということです。私は幸いなことに、働きながらも院展への出品や作家活動を続けることが出来ていますが、本当に時間が足りません！制作時間の確保や仕事との両立は想像よりも厳しいと考えてください。しかしながら何事にも真剣に取り組むことで道が続いていくと思います。一緒に頑張りましょう。

在学中は何事も将来の自分の糧になると考えて、教職員免許と学芸員資格を取得しました。日本画制作では院展に初入選できたことや、アートイベントにも積極的に参加して学生生活を充実して楽しんだと思います。思い返すと恵まれた環境で過ごせた大切なひとときでした。ここで出会った友人や、先生方は一生の宝だと思います。

学生の皆さんへ、歩み続ければどんな道も歩めます。表現者としていつまでも作家活動を続けてほしいと思います。



〈日日は好日〉



〈君憶う光芒〉



〈夕星を結んで〉



2014年
大学院美術研究科
絵画研究分野
油画修了
杉井 隼人

1988年 生まれ
2014年 尾道市立大学大学院 美術研究科修了
2019年 尾道市立大学彫刻実習助手 着任
《展示歴》
2015年 I氏賞選考作品展(グループ展 岡山県天神山文化プラザ 岡山)
「ナイズーム」(パフォーマンス @ハライソコヒー 尾道)
「Temple Planet live」(パフォーマンス @シネマ尾道)
「島の江と牛の世馬のせ」(グループ展 @Gallery ie 大阪)
「dr/op」(グループ展 @光明寺會館 尾道)
2017年 「ONLY CONNECT Beyond Boundaries」
(グループ展 @Goodman Arts Centre シンガポール)
2018年 「静界」(グループ展 @大新美術館 台湾)
Temple Planet 4DX(パフォーマンス @浄泉寺 尾道)
2019年 「ONLY CONNECT OSAKA」(グループ展 @Creative Centre Osaka 大阪)
2021年 「SPONGE HOUSE」(グループ展 @尾道歴史博物館 尾道)
2023年 「つぎはぎの音」(グループ展 @光明寺會館 尾道)



2018年
デザインコース卒業
山口 祐佳

2018年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 デザインコース卒業
2018年 株式会社東北新社にプロダクションマネージャーとして入社



Google 合同会社
「Google Pixel 9Pro あなたの旅が、もっと広がる。」

大学に必要なのは学び方を学ぶこと。知識や技法を知ることと、学ぶということは違う。学ぶということが、自分の中で何が起ることなのかを知っておけば、どこへいっても、何を見ても学びになる。すぐに結果や生産性を要求されがちな今の世の中、自分の学び方を知っておくことは、周りに流されずに済む。その点において尾道市立大学は自分にとって都合が良かった。自分の好きだと思ふものを批判したり、興味のないと思っていた作風や技法にあえて挑戦したり、思いつきのくだらないことでもよく教授たちに話を持っていった。それでも教授たちは話を聞いてくれ、彼らなりの考えを教えてくれた。卒業した今でも尾道に残り、作家の真似事をして暮らしている。作品を展示したり、人を集めて言論を交わす場を設ける活動などを行っている。尾道にもまた、私の話を聴き、作ったものを見て感想を述べてくれる人たちがいるからだ。また大学の彫刻実習の助手にも携わっていて、新入生に実習を通して自分というものがどうやって学んでいるのかを観察するように伝えている。大きなお世話かもしれないが。



尾大では映像を学び、卒業後は映像制作会社でプロダクションマネージャーとしてTVCM等の制作に携わっています。予算やスケジュールの管理が主な仕事なので、自分で手を動かしてモノを作ることは減りましたが、撮影手法を考えたり、作品を介してコミュニケーションを取ったりという行為は学生時代と変わっておらず、地続きになっているなと日々感じています。正直辛いと思うことも多いですが、携わった作品への周囲のリアクションを目にすると、素直に嬉しいなあと思える仕事です。

高校生のみなさん、いろんな人と話して、いろんなことを経験してください！それらが制作のヒントになるのはもちろん、自分以外の視点に気づき、知識や経験を身につけることで、制作や仕事に限らず、人生の選択肢が増えると思っています。愉快的な学生生活を過ごし、卒業から7年経った今でも私を歓迎してくれる人がある尾道は、第二の故郷と言っても過言ではないほど大好きな街です。

まずは目いっぱい楽しんでください！



日本民間放送連盟
「違法だよ！あげるくん」あげすぎさん篇②



CMキャラクターの声優もやりました！
収録の様子